

1学年だより

令和3年11月25日(木)

夢の宅配便

1年学年主任
水野 喜代治

言い訳はしない！

人は、生きている限り失敗をします。このことに例外はありません。失敗をしたり、過ちを起こしたら周りの人に謝らないといけません。「ごめんなさい。」と謝れば、たいていは、「いいですよ。気にしないでください。」と許してくれます。人は失敗をするのですから、「ごめんなさい。」は本当に大切な言葉であることがわかります。

人は、自分もいつかは過ちを起こすことを知っているから、人の過ちを許すことができます。なぜならば人の過ちを許さなかったら、自分の過ちも許されなくなるからです。生きていくことは、お互い様なのです。人はそれぞれ、許しあって生活しているのです。当然、お互いが迷惑をかけないように注意して生きていますが、過ちをなくすことは不可能です。

一日の生活の中で、「ごめんなさい」「失礼しました。」など謝罪の言葉を何も言わないで過ごすことは難しいと思います。今日も電車で通勤している私は、混みあう駅で人とぶつかってしまい。「ごめんなさい。」と謝罪して一日がスタートしました。このような小さな謝罪から頭を深々と下げての謝罪まで、人は一つ一つの過ちを埋めて生活しているのです。

しかし、人とぶつかってでも謝罪しない人もいます。「私は悪くない。向こうがぶつかってきた。」人の車を傷つけても「ここに車を止めておいたがあなたが悪い。」などと謝らない人がいます。「ごめんなさい。」と言わないで、すぐに言い訳をする人がいます。自分は悪くないし、そのようなつもりではなかったと話をそらします。そして、自分は過ちを犯していないと言い切ります。

自分の過ちを認めない人は、自分は悪くないということにしてしまいます。こういう人は、自分自身は常に悪くないとして、相手が悪い場合は相手を許しません。相手が謝っても受け入れません。人は自分がいつか失敗することを知っているから相手の「ごめんなさい。」を受け入れることができます。人に謝る事ができない人は、人を許すことが難しくなります。

時には、だれが見ても、だれが聞いてもあなたが悪いということさえ、嘘をついて言い訳する人がいます。こうなってくるとその人は信用されなくなってしまいます。自分の過ちに正直に向き合う。そして、謝罪ができるということは大切なことなのです。言い訳をしないということは人に優しくなれることになります。

日々の生活で、言い訳をしていませんか、人に優しい人になってほしいと思います。